

海外でも高い評価、 鐺の魅力を現代に伝える

世田谷地域
北沢地域
玉川地域

泰平の世が300年間続いた江戸時代に、日本刀はさまざまな装飾を施されるようになります。そのひとつが鐺。武士の間では鉄製の鐺に透かしの模様を入れ、軽くと同時に遊び心を競い合いました。ネクタイのように婚礼と葬式で鐺を選んだり、季節に合わせて取り替えて楽しんだようです。外国の刀剣は鐺が一体化していて、鐺の付け替えができるのは日本刀だけです。山崎隆司さんは、そんな世界にも類を見ない鐺のデザインの魅力にはまり、鐺作りを始めました。

砧地域
烏山地域

江戸時代の鐺の図柄は星の数ほどあり、さらに地方によって多くの流派があるそうです。現在では刀剣は所持が難しいので鐺だけを装飾品として楽しむ人も増えています。山崎さんの作る鐺はデザインを楽しむだけでなく、居合をたしなむ人にも実用性が高いと評判です。ここ数年はホームページを開設したおかげで外国人にも注目され、海外からの注文も増えてきています。



花鳥風月をモチーフにしたデザインが多い



鐺は手元を防護するためのもの

ここがすごい!!

3 か月で 300 年の時代を付ける秘伝の技法

下絵に沿って地金を糸鋸で切り抜き、ヤスリで仕上げれば鐺の形は完成します。しかしピカピカの新品の鐺は、江戸時代から敬遠されていました。新品を時代を経た色合いに仕上げるのが、山崎さんにしかできない秘伝の漬け込み。古文書に伝えられる技法を独学で研究し、さまざまな砂や土を配合した床に3か月漬け込むことで、新品の鐺に300年の風格が備わります。



亡くなった先生からいただいたという図柄集。鐺の柄を写し取ったもの

透かし模様は鉄板を切って削る。時代の味付けをする漬け込み一つひとつが手づくり

つば 現代鐺工 隆剣
tsubaryuken.com

代表者 山崎 隆司
所在地 世田谷区三宿2-23-1
設立 平成7年(1995年)
主な事業 刀剣の鐺(つば)制作
連絡先 ☎03-5712-7331



山崎隆司さん

VOICE

完成したときの楽しさが
次の挑戦に向かわせる

最初に作った鐺は、本当に簡単な「とんぼ」の図柄でした。鐺の出来よりも完成したことがそれはうれしかったことを覚えています。この時の楽しさが私の鐺作りの原点です。この感動が次の作品への挑戦、独自の技法の研究へとつながっています。